

令和6年度第1回辰野町総合教育会議議事録

【日時】

令和7年1月23日（木）

開会 午前11時00分

閉会 午後12時00分

【会場】

辰野町役場2階 大会議室

【出席者】

14名

（辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

（辰野町教育委員会）

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 飯澤 隆

教育委員 垣内 由佳

教育委員 関 政彦

教育委員 萩原 多恵子

（事務局関係）

総務課長 加藤 恒男

子育て応援課長 高倉 健一郎

学校支援課長 小澤 靖一

学びの支援課長 福島 永

子育て応援課課長補佐 田中 香織

学校支援課課長補佐 宮原 隆史

学校教育係長 翠川 俊一

学校DX推進係長 木田 耕一

1. 開会

【加藤総務課長】

皆さん、こんにちは。令和7年が明けました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。それでは令和6年度の辰野町総合教育会議を始めてまいります。総務課長の加藤ですが、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに武居町長、ご挨拶をお願ひいたします。

2. 町長あいさつ

【武居町長】

本日は、辰野町総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様におかれましては、ご多忙の中ご出席を頂き誠にありがとうございます。日頃は、町の教育行政のみならず、町政全般に亘りご理解ご協力を頂いております事を重ねてお礼を申し上げます。

さて、総合教育会議は、予算編成や議案提出の役割を担う私と教育行政を執行する教育委員会が互いの意思疎通を図り、辰野町の教育課題、目指す姿を共有する為の場です。今回の協議事項は、「町内小中学生の状況について」「学校の新たな当たり前をつくるために」「子ども・若者の居場所づくり」「辰野西小学校体育館の新たな利用にあたって」「小中学校あり方検討委員会の検討状況について」「平出保育園 東部保育園への統合について」の6項目とさせていただきました。急激な人口減少、少子化が進行する中で子ども達を取り巻く環境も大きく変化しています。長い歴史を重ねてきた川島小学校が、この3月をもって辰野西小学校と統廃合されます。小・中学校あり方検討委員会の検討状況についても、本日も報告がなされるものと思います。町側からは、保護者会等で協議を重ね一定の方向がまとまってまいりました平出保育園の今後について、これまでの経過と併せてご報告させていただきます。

本日の会議で、教育委員の皆様と意見交換をさせて頂き、今後の教育行政についてさらに連携して推進して参りたいと思いますので、忌憚のないご意見ご発言をお願ひし、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願ひいたします。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。続きまして宮澤教育長お願ひいたします。

3. 教育長あいさつ

【宮澤教育長】

皆様こんにちは。令和6年度第1回総合教育会議にご出席頂きありがとうございます。

寒中ですが、町内小中学生は毎朝元気に登校しております。小学校では冬の風物詩ともいえるスキー・スケート教室が行われております。慣れないスキー・スケートにときには苦勞しながらも楽しく取り組んでおります。学校から報告を受ける度に、有難いことだと思っております。

さて、コロナ禍が収束して大分経過しますが、コロナ禍以降学校を取り巻く環境が大きく変化し、学校のあり方が問われております。文科省や県教委は、学校だけが学びの場ではないと言っておりますし、多様な個性や思いに対応するために学校以外に学びの場を求める方々が見られるようになりました。数字が独り歩きしているようなところがありますが、不登校の子どもも年々増加しており、大きな社会問題となり様々な対応策が求められております。

さて、今日の令和6年度総合教育会議ですが、町内小中学生の状況とこれを受けて新たな学校の当たり前を作ること、子ども・若者の居場所についての提案、新たにエアコンが設置された辰野西小学校体育館の利用にあたって、町内小・中学校あり方検討委員会の検討状況について、保育園関係等になっております。教育委員の皆様には資料をご覧になっての感想はもちろん、周囲から頂く声なども含めさまざまな角度から忌憚のないご意見をよろしく願いたします。

様々な課題山積みの辰野町の教育行政ではありますけれども、だからこそ町長と町教育委員会とがより一層連携し、目指す方向を一致させて、共に進んで参りたいと思いますので、よろしく願いたします。

4. 協議及び意見交換

【加藤総務課長】

本日、取材や傍聴いただいている方々へのご案内でございます。本日の資料については次第のみの配布とさせていただいております。それぞれの担当からの説明資料につきましては、後日会議録と併せて町ホームページに掲載させていただく予定です。本日は画面で内容を紹介させていただきますので、資料配布なしといたします。

それでは、協議および意見交換に入ります。はじめに（１）町内小・中学生の状況についてと併せまして、（２）学校の新たな当たり前をつくるためについて、教育長からお願いいたします。

【宮澤教育長】

それでは小中学生の状況について説明させていただきます。資料No.1をご覧ください。昨年の４月、小学６年生と中学３年生に行われた全国学力状況調査の結果です。まず学力の面ですが、小学生国語はほぼ全国平均と同じ、算数は全国より高い、その中でもかなり高かった学校が２校ほどあります。中学生国語はほぼ全国と同じ、数学は全国より若干低いという状況でございます。次に生活状況ですが、これは設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という４択からの回答となります。自己肯定感について、小学生は全国平均並み、中学生は全国平均を９ポイントほど下回っております。過去２年では、小学生中学生共に全国平均より８～１０ポイントも高い数値を示し、それに伴い将来への夢をもっており、いじめはどんな理由があってもいけない、人が困っていると助けてあげたい等も全国平均を大きく上回っておりました。今年は、自己肯定感が全国平均より下がったといっても、将来への夢やいじめについての項目はあまり下がっていないので、引き続き健全な子どもに育てていると言えます。これからもよい姿や行いをしっかり認め、肯定的なシャワーを常にかけていきたいと思えます。

学校生活では、友達関係に満足している割合が高くなっています。国語、算数・数学、理科等は大切な教科であり、社会に出た時に役に立つと前向きに捉えています。家庭生活では、９割の子ども達が幸せな気持ちになっていると答えているのに対して、１割の子ども達が「そう思わない」と答えており注意が必要です。家庭での学習時間には大きな開きがあり、課題となっております。SNSやスマホが当たり前になっていきますので、各家庭でのルール作りが必要です。

次に、昨年６月に実施したQ-U調査、これは居心地調査とも言いますが、全国学力状況調査と同じく小学６年生と中学３年生の結果となります。小学６年生は、「クラスが明るい」や「クラスの活動が楽しい」「級友は話を聞いてくれる」等が比較的高く、良好なクラス環境になっていると言えます。一方、「学校に行きたくない時がある」「仲間に入れてもらえない時がある」等も１～２割近くいるので注意していかなければいけません。中学３年生については、「クラスの人はいろいろな活動に誘っ

てくれる」「気軽に話せる友達がいる」等が極めて高く、「クラスや部活動でからかわれる」「授業中冷やかされる」は大変低く、良好な人間関係が築かれています。その一方で、小学生同様に「一人であることが多い」「クラスで浮いている」と感じる子ども達が1割ほどいることに注視していく必要があります。

これらを受けて、資料No.2をご覧ください。町内の小中学校では、児童生徒にとって居心地のよい学校、楽しい学校、自分達の興味があることややりたいことができる学校等を目指し、学校目標として「どの子にも居場所がある楽しい学校」を掲げ、実現を図っていきます。そのため具体的な取り組みとして3点考えております。

1つ目は、ワクワクする授業や体験を増やす、授業や教育活動では積極的に学校外に出る、荒神山に登り上から町や郷土を観察する、校外活動やクラブは児童生徒の声を取り入れたものにする等です。また、小学校の教科担任制をさらに拡大させ、より専門的な授業を提供していきます。

2つ目は、現在、水曜日以外のほとんどが6時間授業となっておりますが、小学生にとって6時間授業は大変厳しいものがあります。そこで、新年度スタート時や夏休み・年末年始休業等の長期休業明けの子どもにとってきつと感じる時期、また先生方が忙しい時期を中心に4～5時間授業を導入して余裕をもたせます。放課後、自由に使える時間が増えることとなりますので、友達同士で学校で遊ぶ時間ができたり、先生方と子ども達が遊んだりできます。先生方にとっても、会合を勤務時間内に終わらせることができ、教材研究に使える時間を確保できることで勤務時間縮減が期待できます。しかし、学習指導要領から逸脱した教育課程を編成することはできませんので、登校日数を徐々に増やしていく必要があります。

3番目は、児童生徒が学校づくりに参画することです。修学旅行や臨海学習、運動会等の学校行事に子どもの意見を取り入れて、子ども主体の学校づくりを進めていくことです。昭和の遺産であり、合理的な説明ができないきまりや校則については廃止していき、令和の時代にふさわしいきまりを子ども達と一緒に作っていきます。辰野中学校では、制服について具体的な検討を進め、早めに結論を出していきます。以上、資料No.1、2について説明いたしました。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。ただ今、教育長から全国学力状況調査等から分かる子ども達の状況と学校の新たな当たり前をつくるためについてご説明いただきました。続

きまして、3、4番目の項目の「子ども・若者の居場所づくり」「辰野西小学校体育館の新たな利用にあたって」について学びの支援課から説明をお願いいたします。

【福島学びの支援課長】

子ども・若者の居場所づくりについてですが、昨年の教育委員会の席上で図書館が閉館する18時以降に学習できる場所が辰野町にはないという意見が届いているというお話がありました。これを受けまして、学びの支援課といたしましては町民会館を一部開放して自主学習の場として提供することを検討しています。今のところ、町民会館104学習室を夜間開放して、机を並べて勉強したい方々に使っていただくように考えております。あわせまして、町民会館エントランスの東側にテーブルを配置して、打合せや食事スペースとして開放していきたいと思っています。104学習室の開放につきましては、現在予約して使用されている方々がいるので、年度が替わった4月からの実施を考えています。

続きまして、4番の内容につきまして資料がありませんが、辰野西小学校の体育館の改修作業が進んでおりまして、空調設備がつくようになりました。平日夜間と休日に一般開放として登録団体にお貸ししていますが、夏場の冷房を使用した際に電気料を負担していただく必要がございます。現在、使用料について検討しているところです。長野県内の冷房設置されている体育館の事例を見ながら、1時間あたりどのぐらいの負担が妥当なのか、実際に体育館を利用している団体や社会教育委員の皆様のご意見を頂いて使用料を決めて、3月の条例改正に向けて動いていくところでもあります。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。はじめの内容では、子ども・若者の夜間や休日の居場所の確保ということで町民会館の一部を開放して学習することを検討中ということでした。また、辰野西小学校の体育館の空調の使用料を決めていくということでもあります。社会教育委員の皆様にもご意見をいただくということで、本日までご出席の皆様からご意見をいただければと思います。続きまして、5番目の項目にまいります。「小中学校あり方検討委員会の検討状況について」学校支援課からお願いいたします。

【小澤学校支援課長】

資料No.5をご覧ください。小・中学校あり方検討委員会を立ち上げた背景から説明させていただきます。人口減少に伴う少子化によりまして、辰野町内の小中学校におきましても、教育環境の学びの集団が小さくなり、人間関係の固定化、多様な考えをもとにより深い学びを実現させることが難しくなっている、学級数の減少により配置される県費教職員数の減少等、現在の学校配置では活気ある良好な教育環境を継続的に維持していくことが極めて困難な状況になることが想定されております。そこで辰野町立小・中学校あり方検討委員会を立ち上げ、辰野町内の児童生徒数の推移を踏まえ、辰野町立小・中学校の将来を展望した学校の適正規模・配置及び学校のあり方について幅広い見地から研究及び検討を行っているところでございます。資料No.5に、第1回から第5回までの検討委員会の検討状況について記載してあります。令和5年度に検討委員会を立ち上げまして、令和6年1月に1回目の検討委員会を開催しております。協議事項の③に記載しておりますが、検討委員会の進め方としまして論点整理を行い学習会を予定、その後県内先進地の視察を行い大まかな論点整理ができたところでパブリックコメントを行うという流れとなっています。資料2ページ目をご覧ください。第2回目から4回目につきましては、委員の皆様によるワークショップを開催してまいりました、2回目につきましては、「こんな学校ができればいい」「子ども達にこんな学びをさせてあげたい」「小・中学校の関わりはどうあったらよいか」「地域はどのように関わったらよいか」に着眼しましてワークショップを行っていただきました。第3回目は「少子化の進展に対応した学校」「多様な子どもたち一人一人を大切にする学校」「これからの社会を生き抜く子どもたちを育てる学び」「地域と共に歩む学校」これらに着眼して、さらにグループ討議を深めてきました。3ページですが、第4回目のワークショップでは学校を集約することのメリットや課題についてグループ討議を行っていただきました。グループ討議を行う中で、以前出された提言書にありますように1学年概ね10名という基準がありますが、これらの基準を残してもいいのではないかという意見が出てきましたが、委員の皆様の意見ではなんらかの形で辰野町内の学校を集約していく方向ではないかという声を多くいただきました。これまでのワークショップの中で、委員の皆様から具体的に「小中一貫校」や「義務教育学校」という発言が相次いでいましたので、第5回目の検討委員会では小中一貫校と義務教育学校について事務局より資料を提示いたしまして、学習会という形で行ってまいりました。第6回目の検討委員会を1月30日に予定しておりますが、第5回目の学習会を踏まえてさらに小中一貫校と義務教育学校について理解を

深めていこうということでグループ討議を予定しております。では資料4ページをご覧ください。今後の小・中学校あり方検討委員会ですが、第6回目を1月30日、年度が替わりまして第7回目を4月に行う予定です。年度が替わりますと、具体的な方向に向かいまして視察訪問を計画していきたいと考えております。また、協議内容の公開と住民からの意見を求めていきたいです。9月には提言書の原案をまとめて、令和8年2月に辰野町教育委員会に提出していくことを考えております、以上です。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。急激な少子化や社会変化を見据えて、昨年1月に第1回目の検討委員会を開催して以降、5回に亘って検討、協議を重ねてきた経過について、また今後の予定についてご報告いただきました。それでは最後になりますが、町側から平出保育園 東部保育園への統合について、子育て応援課からお願いいたします。

【高倉子育て応援課長】

統合につきましては、すでに新聞等の報道で御存知かと思いますが、内容経過を報告させていただきます。子育て応援課では昨年度より統合について協議を進めてきました。これまで平出区からは地元に残したいという要望がありましたが、現在の保育園施設の老朽化、少子化、立地場所に交通上危険があること、大雨災害等で心配があること等から現在の場所での存続が難しく、東小学校内に設置する案もございましたが、小学校の児童の学校生活の調整の問題があることやスペースの問題から、保護者のニーズの高い長時間保育や未満児保育に対応することができないという理由から東部保育園との統合という方向に絞って協議を進めてまいりました。

資料No.6になりますが、昨年以降の経過を載せています。主なところでは、2月の子ども子育て会議で東部保育園と統合する方向で進めたいとしたところ、6月に平出区からその方針に沿うという結論に至り、平出保育園のあり方検討委員会を解散する報告がございました。7月にはこの内容につきまして、子ども子育て会議で閉園、統合の時期について話し合いを行いました。平出保育園の保護者代表から保護者対象に説明会を行いたいと希望がありましたので、8月に説明会を行い、統合について意見や要望を聞く機会を設けた他にアンケートを行いました。加えて、平出保育園では町の説明会以外にも保護者だけで話し合う機会も設けていただいております。保護者の

要望の中には、東部保育園との交流というものがありましたので、平出保育園の園児が東部保育園のプールを利用するプール交流等を進めているところです。

そして、昨年11月に行われた子ども子育て会議では、平出保育園保護者代表から平出保育園の保護者の意見を取りまとめていただき、統合に関する内容としましては早期の統合、統合時期は令和8年4月1日、閉園は令和7年度末という要望が出されました。会議で話し合った結果、統合時期を要望のように決めさせていただきました。12月に行った保護者への説明会では、統合に向けて再度要望等を聞きまして、今後主なところでは園児バスの利用、駐車場の増設、その他修繕等整備を進めております。資料2、3ページには保護者アンケート結果を記載しています。4ページ下段の今後のスケジュールについてですが、次年度予算要求中のため決定していることではありませんが、統合までの間の交流や園児バス、保育園の整備等の要望に関してできるだけ応えていきたいと思っております。統合に関しての説明は以上となりますので、よろしく願いいたします。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。昨年2月以降、保護者の皆様や子ども子育て会議の中で検討を重ねてまいりました平出保育園の統合についてですが、方向が決まってまいりましたのでその内容と今後のスケジュールについて報告をさせていただきました。以上6項目、一括で説明と報告をいたしました。皆様からご意見をいただきたいと思えます。

【飯澤教育長職務代理】

町内の小中学生の状況について、昨年の全国学力学習状況調査の結果を見ていて、数値は昨年、一昨年より下がっているものはありますが、自己肯定感はある程度の数値を示しています。「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「困りごとや不満があるときは先生や学校に相談できる」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」等全国平均並みになっていて、そういうような状況から考えて辰野町の子どもたちは自己肯定感を高くもっているように思います。辰野町の教育委員会では3つの目標を掲げていますが、このまま継続していくことで子どもたちの自己肯定感がさらに高くなっていくような教育を進めていけたらよいなと思っております。そのためには、それぞれの学校、学級にどうやっておろしていくのかしっかり検討していかな

ければなりません。自分のことも、人のことも大好きになる子どもたちになって欲しいです。

現職だった頃、県教委から子どもと向き合う時間を確保することと教職員の勤務時間の縮減に取り組むことという相反する2つのことを言われておりました。先ほど宮澤教育長が言われていた、日課の見直しが必要になってきます。シンプルな日課を作る、5時間授業を取り入れて、先生方がゆとりのある時間をもてるようにすることで、子どもと先生方が遊ぶ時間や教材研究の時間を確保できるよさがあります。

3つ目は小・中学校あり方検討委員会についてですが、この委員会を立ち上げたのはいいタイミングだと思います。今、どうしたらいいのかを考えていかなければいけない時期になってきました。

【加藤総務課長】

ありがとうございます。それぞれの方から意見をいただいた後に、必要に応じて担当課より回答させていただきます。

【垣内教育委員】

飯澤先生が仰っていたように、授業時間の確保やゆとりある時間を作ることは大切だと思います。夏休みが長いと食事作りで保護者の負担があります。夏休みに学童を利用している子どもが多いですが、学校に行っているのと変わらないところがあります。夏休みが短くなると、保護者負担軽減につながりますし、学校に行く時間を増やすのは大切です。

子ども・若者の居場所づくりについて、早速対応してくださってありがたいです。コロナ禍が明けて、みなさん活動するようになったので、場所があることでみなさんにとって有効だと思います。

【関教育委員】

辰野西小学校体育館の冷房使用料についてですが、それなりの電力消費量が予想されます。手間はかかりますが、試行錯誤しながら利用状況やランニングコスト等のデータをとっていくことが必要になってくるかと思います。

小・中学校あり方検討委員会についてですが、方向性が決まってきました。今後さまざまな課題やハードルが生まれてくると思いますが、各小学校それぞれの特徴や地

よさを活かして、地域との連携をしっかりとっていかないと、コミュニティスクールとして形が脆弱になってしまうかと思います。

【萩原教育委員】

全国学力学習状況調査は家庭生活がベースになっての結果であり、保護者が子どもと向き合えているかどうかを考えるきっかけにしないといけないと思います。この結果が保護者にも伝わるとよいかと思います。

子ども・若者の居場所づくりについてですが、友人からの意見を受けたことから会議の場でご質問して、ご対応いただいた運びとなりました。受験に向けて中学生や高校生の学習の場として、早期に実現していただけることになりありがたいです。また、図書館の休館日となる月曜日は、祝日で学校が休みの日が多いです。そのような日や図書館開館時間の10時以前にも利用したい声があるためご配慮いただくとありがたいです。辰野町の子どもたちは進学先が広範囲にわたっています。高校から帰ってきて、地元の辰野町で学習スペースの利用ができると応援してもらっているような気持ちにもなりますし、仕事帰りに迎えに行くことができるので大変ありがたいです。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。飯澤教育長職務代理からお話がありましたように、温暖化で夏の暑さが脅威になっております。町でもクーリングスポットの施設認定をする中で、図書館もその位置づけになっております。図書館は学びのモチベーションを上げる場でもあり、空調が整っていて暑さ対策としてもよい居場所かと思います。

また、関委員からのお話にありましたように、辰野町の学校は地域で支えられています。しかし、地域運営が難しくなっている部分もありますので、今後意見交換をして新たな道が描けるとよいと感じています。辰野西小学校体育館の冷房使用料については、体育館を利用される方々に負担をいただくことはやむをえないということがありました。福島課長こんな考え方で進めたい等があればお願いします。

【福島学びの支援課長】

県内の体育館で冷暖房を設置している市町村は、松本市、中野市、小布施町等です。松本市は午前・午後・夜間の区分、小布施町は1時間あたりの料金となってい

ます。辰野町としては従来通りの1時間あたりの料金が合理的かと思います。西小学校で設置している冷暖房を年間通して使用した時の概算をいただいていますので、1時間あたりで割って時間単位の金額を出していこうと考えています。今のところは、2000円ぐらいいただくことになるかと思います。使用料を全額いただくとすると利用者の皆様に過大な負担をかけてしまうことになるので、実際に使われている方々から意見をいただきながら具体的な数字を出していきたいと思っています。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。具体的には議会に諮って、使用料を設定していくことになりませんが、利用者の方々に過大な負担にならないように配慮していくことになるかと思います。方向性が決まりましたら、またご報告をさせていただきます。

平出保育園についても、保護者や関係の皆様にご丁寧にお話をしていくことがまだまだあるかと思います。また引き続きよろしく願いいたします。

では、以上をもちまして意見交換を終了とさせていただきます。本日のまとめをお願いいたします。

【武居町長】

6つの協議事項についてお話いただきました。辰野町の教育環境は、保護者や地域の皆様が一生懸命子どものことを思って今日まできているのは誇れるものかと思っております。自己肯定感は、生きていく上で自信を植え付けられる、勇気を与えてくれる言葉だと思っておりますので、自己肯定感を高めていけるような環境を作っていかなければならないと感じております。

他市町村では行っていないことを辰野町では行っていると評価していただける方がいます。他市町村より劣っていることは目につきやすいのですが、優れていることは隠れてしまいがちです。教育だけでなく、保健福祉関係も含めていろいろな制度があるのですが、住民の皆様にご周知徹底されていないのはPR不足なのかと町役場の反省事項でもあります。これからもPRしていきたいと思っております。

もう一つ延長線上として、子どもの教育を通して大人の自己肯定感を高めていく必要があります。家庭内において、この町や学校はダメだと大人が悪いことばかりを子どもの前と言うと、子どもに植え付けられていくのではないかと危惧しており

ます。良いところを伝え、家庭の中での会話を意識してもらいたいと思っております。ありがとうございました。

【宮澤教育長】

今日は自己肯定感という話題が出ましたが。私が教育長になった頃、辰野町の小中学生は全国と比べて自己肯定感が毎年低くて、なんとかしないといけないという思いがありました。でも学校に行って子どもたちを見ると、いい子どもたちばかりで何か良い方法があるのかなと感じました。しかし、コロナで全てができなくなり、このまま家に閉じ込めておくと子どもたちの心と身体が壊れてしまう心配がありました。そこで、令和3年に「先生方が我が子も入れたくなる学校」「子どもたちが明日も行きたくなる学校」を目標に掲げて取り組んできました。4年が経ち、その成果が徐々に現れてきているのかと思っております。昨年、一昨年は全ての項目において、全国平均より8～10ポイント高い調査結果となりました。その裏には先生方が子どもたちの思いを受け止めて、自己肯定感を高めるシャワーを浴びせ続けてくれたことが大きいかと思えます。昨年度から各学校のグランドデザインにも、居場所がある学校、明日も行きたくなる学校ということを入れてもらえるようになりました。これからもそのような学校づくりを目標としてまいります。また、1割ぐらいの子どもたちの一人ぼっちでいるという気持ちにも目を向けていかなければいけません。さらによい学校にしていくことが我々の責任だと思っております。

今日はさまざまな報告があり、町長と意見交換ができました。辰野町では総合教育会議という形を開かなくても、何かあれば町長や教育長と話をしていければと思っておりますが、このような会議の場で意見交換することをこれからも大切にしていきたいです。今日はありがとうございました。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。少し時間を超過してしまい大変申し訳ございません。皆様御存知のとおり、辰野町は新町発足70周年の年を迎えることとなります。記念式典は6月15日を予定しておりますが、年間を通してさまざまな行事を企画しております。小中学生のみなさんが参加していただく機会もあり、辰野町や各学校のそれぞれの学校のよさを見直し、大人も子どもも自己肯定感を高める実のある年にしていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。